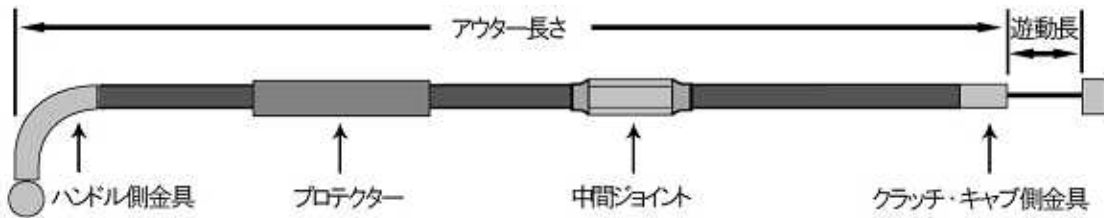


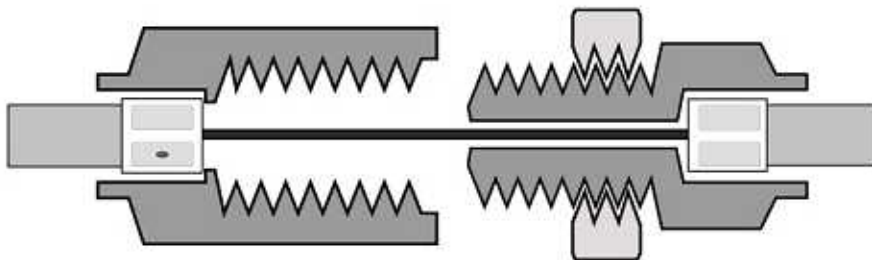
ケーブル製作説明



1. アウターチューブの長さを決めます。(純正品を参考にして下さい。)
 - ハンドルをフルロックしても突っ張らない長さにして下さい。
 - 中間ジョイント等のネジ調整金具が一番短い状態にしておいて下さい。
 - プロテクターはエンジンの熱からケーブルを守るための物です。適切な場所に必要な長さを切ってケーブルに通して下さい。プロテクターの位置が決まりましたら瞬間接着剤等で1ヶ所接着して下さい。
2. ハンドル側金具から順にカシメていき、最後にアウターチューブを切断して、クラッチ又はキャブ側金具をカシメて下さい。(カシメ方法は別項参照)
3. インナーワイヤーにハンドル側タイコをロウ付けします。(ロウ付け方法は別項参照)
4. インナーワイヤーにグリスを塗り、アウターチューブを通し、遊動長を確認して、切断して下さい。(純正品を参考にして下さい。)
5. アウターチューブにインナーワイヤーを通した状態でクラッチ又はキャブ側ニップルをロウ付けします。
6. 各金具の取付け強度の確認と、インナーワイヤーがスムーズにスライドするかを確認し、完成。

遊動長とは、クラッチレバー・アクセルレバーを動かす為の遊び長さの事です。純正品を参考にして下さい。ロングケーブル、ショートケーブル製作時でも、遊動長は変わりません。

中間ジョイント、ハンドル側金具等のネジ調整金具は下図の様にケーブル両端にキャップ金具を付けておく事でスムーズな可動が出来ます。



ケーブル金具カシメ工具使用方法

1. ケーブルの切断

アウターチューブを必要な長さにカットする。

切断面の外径、内径部分のバリをカッター等で除去する。

図1のようにアウターチューブ内にはコイル状の金属が巻いてある為、コイル溝部を切断するときれいに切れます。



図1

2. カシメ工具の使用

カシメ工具のセットボルトを約 1mm 程度突き出すように工具の両方をセットする。(図2)

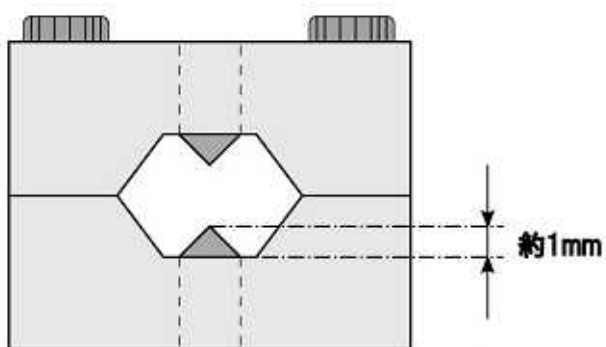


図2

アウターチューブに金具をセットし、カシメ工具で挟む。

カシメ工具の間の隙間がなくなるまでボルトを締め込む。(図3)

(隙間がある状態の場合、使用時に金具が外れる恐れがあります。)

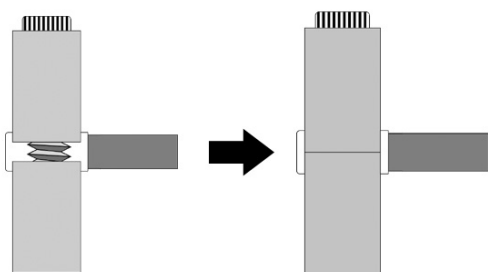


図3

カシメ工具のボルトを緩め、アウターチューブを取外す。

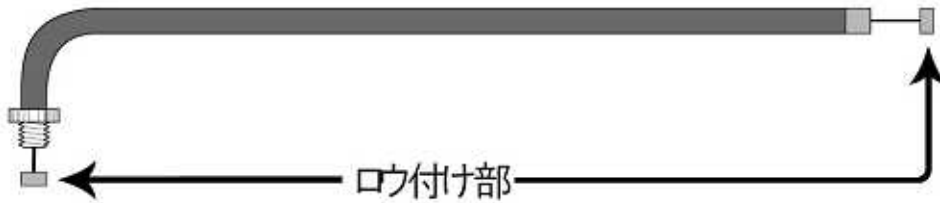
金具とアウターチューブが外れない事を確認して、作業は終了です。

バイスをお持ちの方はカシメ工具下部をバイスで固定していただく事で上手にカシメる事が出来ます

タイコ、末端金具のロウ付け

別途用意する物

- ・ニッパー ・コンロ ・ナベ等の金属性耐熱容器(ハンダを溶かすのに必要)
- ・割り箸(ハンダの不純物除去) ・冷却用油、冷却用水
- ・防錆スプレー ・サンダー又はヤスリ



1. ロウ付け準備

タイコ、その他末端金具(以後金具)にインナーワイヤーを通し、ニッパー等でインナーワイヤー先端を潰す。(逆さにして抜けないように)(図4)

溝のある金具はワイヤーを通してから二股に割り、溝にはめ込めば抜け防止になります。(図5)

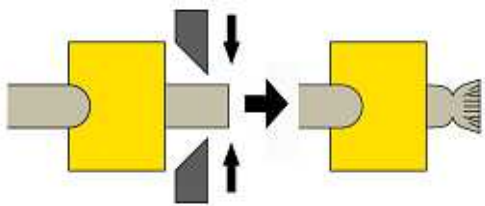


図4

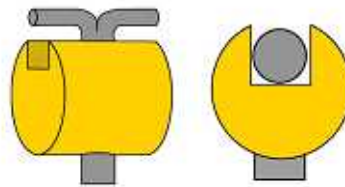


図5

ハンダを空き缶等の容器に入れ、コンロ等で熱して溶かしておく。ハンダが溶けたのを確認し、火を小さくする。ハンダが溶けると不純物が浮いてきますので割り箸等で取り除いてください。ハンダから煙が出てきた場合は加熱のし過ぎです。

インナーを通した金具を金具が沈むまでハンダ液に浸ける。

ハンダ液から引き上げた金具の先端を解けたハンダの中に浸ける。2～3秒でワイヤーに毛細管現象でハンダが金具より上がるのを確認し、(図6-1)金具全体をハンダに埋まるまで浸けてから引き上げる。(図6-2)

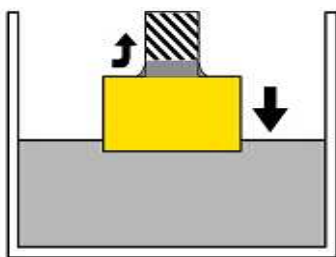


図6-1

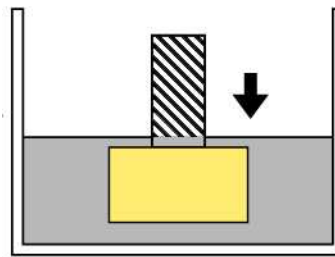


図6-2

すぐに冷却用油(マシン油、グリス等なるべく粘度の高い物)に浸け、次に冷却水に浸け、冷却する。

金具先端に出ているワイヤー部分をサンダーやヤスリ等で整え、仕上げに防錆スプレーを吹き付けて完了。

注意

- ・ハンダ及びハンダ液は糸ハンダ、ペースト等の通常市販されているものは強度不足になる恐れがありますので使用しないで下さい。(インナーワイヤーがステンレス製の為、付かない場合があります)
- ・ハンダ使用時は換気を十分に行い、保護具を着用して作業を行ってください。
- ・ハンダ液が目や皮膚に付いた場合は水道水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

- ・ケーブルの製作にあたり、製作後に必ず強度の確認を行ってから車両へ取付けをお願いします。
- ・車両取付け後、必ず走行前に作動チェックを行ってください。
- ・ケーブル製作は自己責任において製作、取付けとし、それらに伴う事故、不具合に関しては弊社は一切の責任を負いかねます。